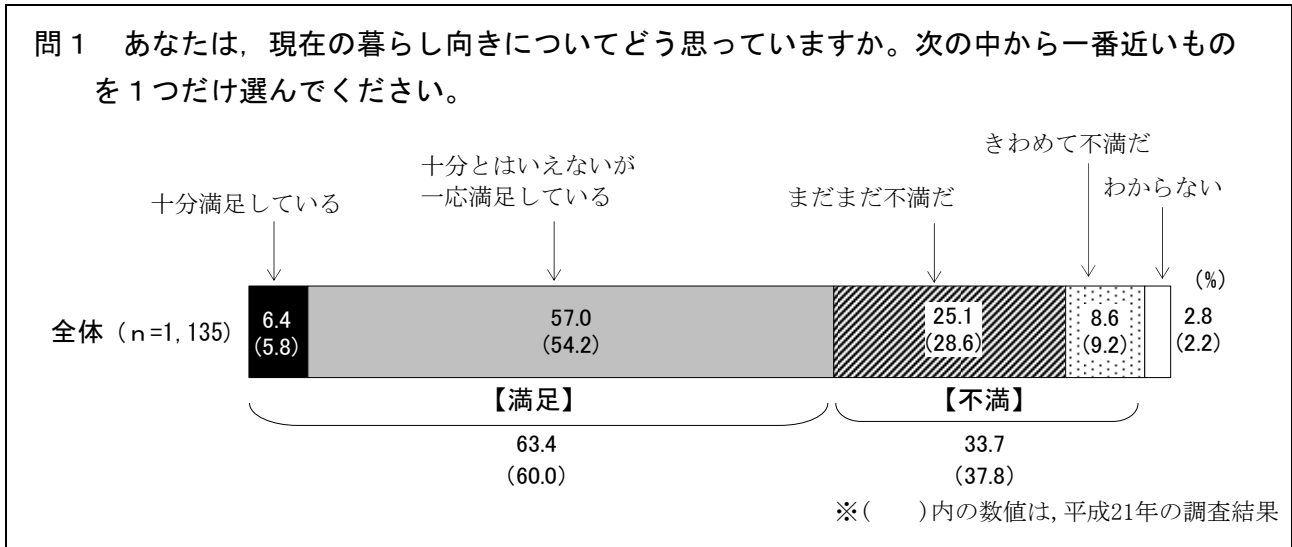


I 生活意識

1. 暮らし向きの満足度

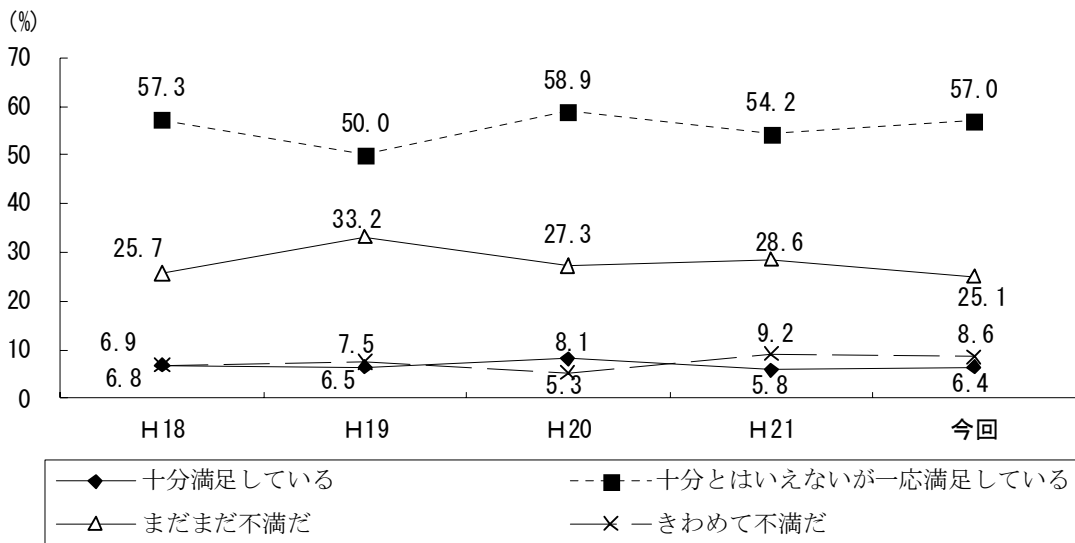
—【満足】が6割台半ば—



現在の暮らし向きの満足度としては、「十分満足している」(6.4%)と「十分とはいえないが一応満足している」(57.0%)を合わせた【満足】(63.4%)が6割台半ばとなっている。一方、「まだまだ不満だ」(25.1%)と「きわめて不満だ」(8.6%)を合わせた【不満】(33.7%)は3割台半ばになっている。

前回調査と比べると、【満足】が約3ポイント増加し、【不満】が約4ポイント減少している。

図I 1-1 暮らし向きの満足度(時系列)



—【満足】は、女性の70歳以上で8割近くを占める—

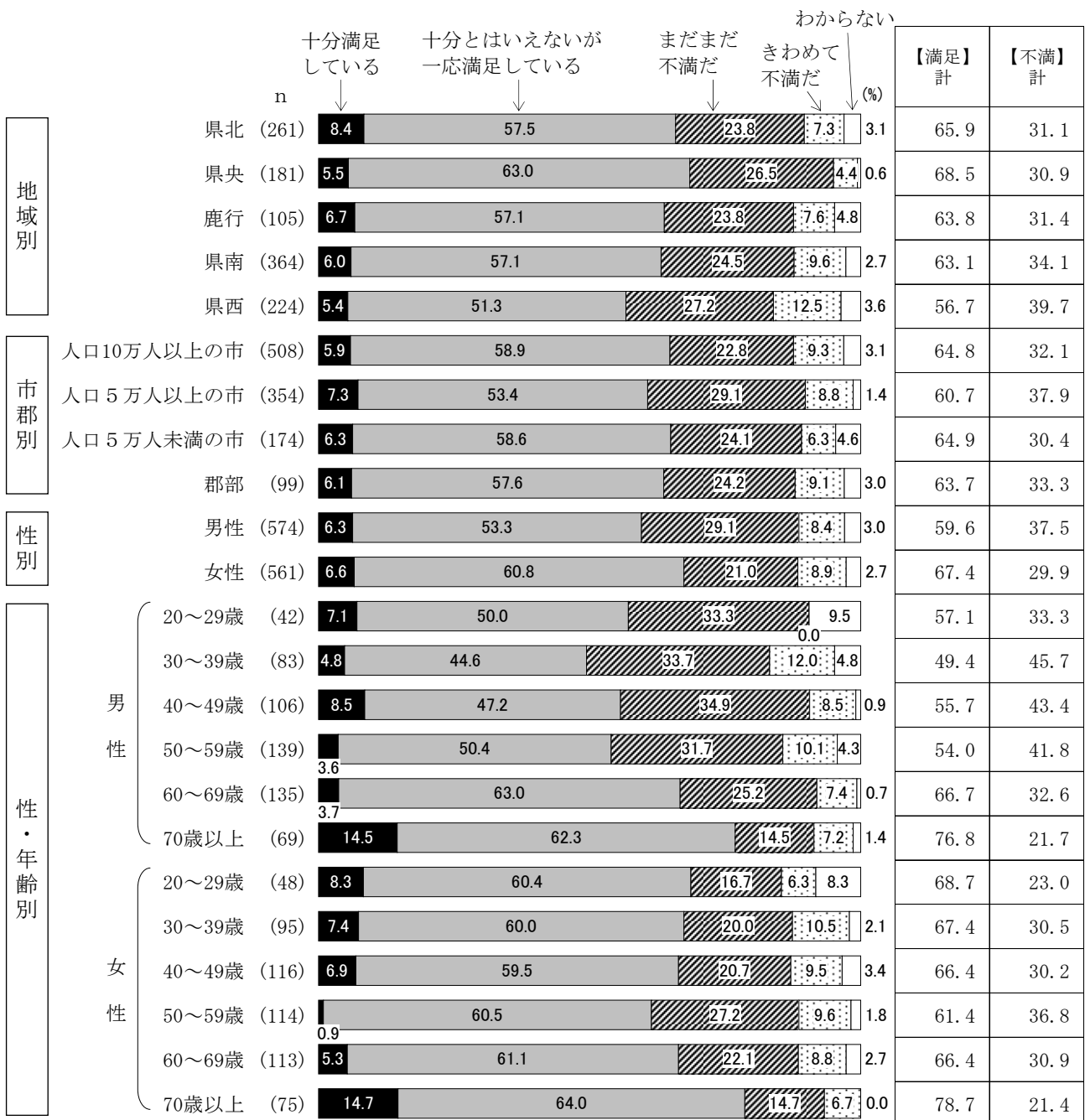
地域別でみると、【満足】は、県北（65.9%）、県央（68.5%）、鹿行（63.8%）、県南（63.1%）では6割を超えているが、県西（56.7%）では6割を下回っている。

市郡別でみると、【満足】は、いずれの層でも6割を超えている。

性別でみると、【満足】は、女性（67.4%）が男性（59.6%）より約8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、男性では、【満足】は、60代（66.7%）、70歳以上（76.8%）で6割を超えている。【不満】は、30代（45.7%）、40代（43.4%）、50代（41.8%）で4割を超えている。女性では、【満足】は、70歳以上（78.7%）で8割近くを占め、他の年代より高くなっている。女性で【不満】が最も高いのは、50代（36.8%）で3割台半ばを占めている。

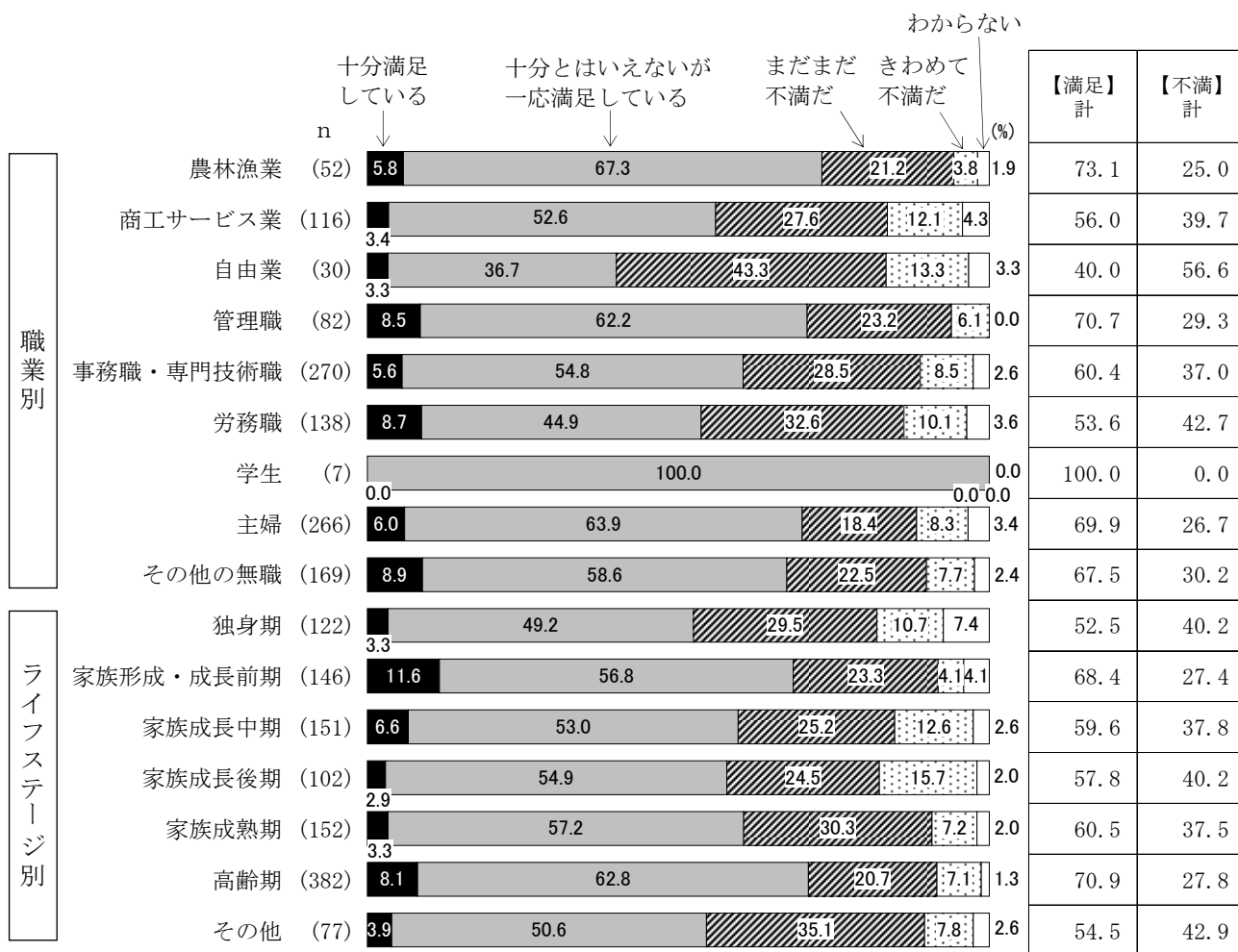
図 I 1-2 暮らし向きの満足度（地域別、市郡別、性別、性・年齢別）



職業別でみると、【満足】は、農林漁業（73.1%）と管理職（70.7%）で7割を超え、高くなっている。一方、【不満】は、自由業（56.6%）で5割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、【満足】は、家族形成・成長前期（68.4%）、高齢期（70.9%）で7割前後と高くなっている。一方、【不満】は、独身期、家族成長後期（ともに40.2%）で4割を超え高くなっている。

図 I 1-3 暮らし向きの満足度（職業別，ライフステージ別）



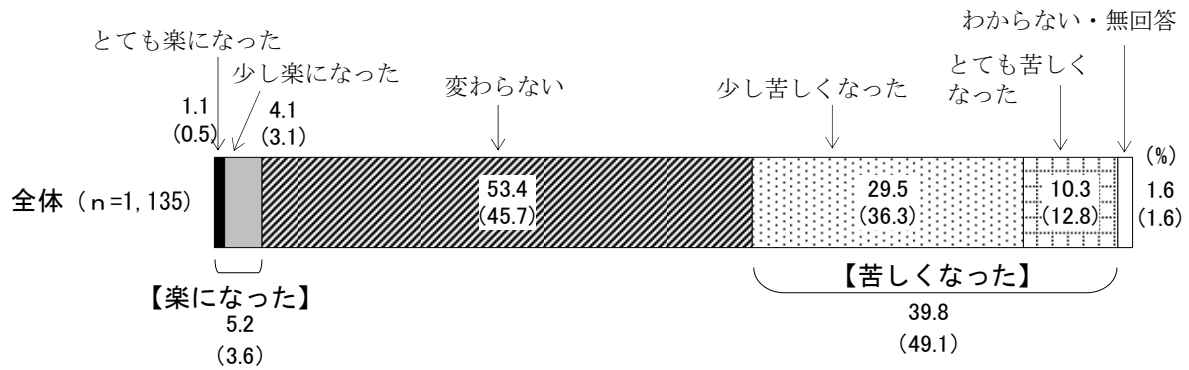
(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

2. 暮らし向きの変化

(1) 暮らし向きの変化

—「変わらない」が5割台半ば—

問2 暮らし向きは、昨年の今ごろに比べ楽になりましたか。それとも苦しくなりましたか。次の中から一番近いものを1つだけ選んでください。

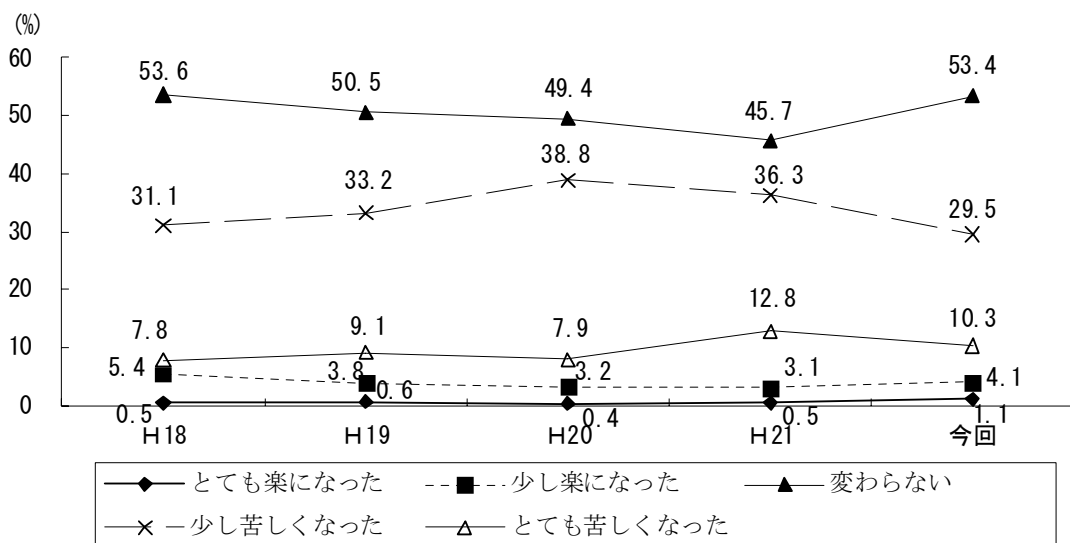


※()内の数値は、平成21年の調査結果

暮らし向きの変化としては、「変わらない」(53.4%)は5割台半ばとなっている。「少し苦しくなった」(29.5%)と「とても苦しくなった」(10.3%)を合わせた【苦しくなった】(39.8%)は約4割となっている。

前回調査と比べると、「変わらない」が約8ポイント増加し、「少し苦しくなった」は約7ポイント減少している。

図 I 2-1 暮らし向きの変化(時系列)



—【苦しくなった】は、男女ともに50代で5割を超える—

地域別でみると、「変わらない」は、県南（58.8%）で6割近くを占め、鹿行（44.8%）では4割台半ばで低くなっている。一方、【苦しくなった】は、県央（46.4%）、鹿行（44.8%）で4割台半ばを占めている。

市郡別では、特に大きな違いはみられない。

性別では、特に大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「変わらない」は、男性の70歳以上（66.7%）、女性の60代（60.2%）、70歳以上（69.3%）で6割を超え高くなっているほか、男性の20代（59.5%）でも6割近くとなっている。一方、【苦しくなった】は、男女ともに50代で5割を超えて高くなっているほか、男性の40代（45.3%）、60代（40.0%）、女性の40代（47.4%）でも4割を超えている。

職業別でみると、「変わらない」は、その他の無職（62.1%）で6割を超え最も高く、管理職（54.9%）、主婦（57.9%）、で5割台半ば前後となっている。一方、【苦しくなった】は、農林漁業（48.0%）、自由業（50.0%）が約5割を占め高くなっている。

ライフステージ別でみると、「変わらない」は、独身期（61.5%）、高齢期（62.6%）で6割を超え、高くなっている。一方、【苦しくなった】は、家族成長中期（52.9%）、家族成長後期（54.9%）で5割を超え高くなっている。

図 I 2-2 暮らし向きの変化（地域別，市郡別）

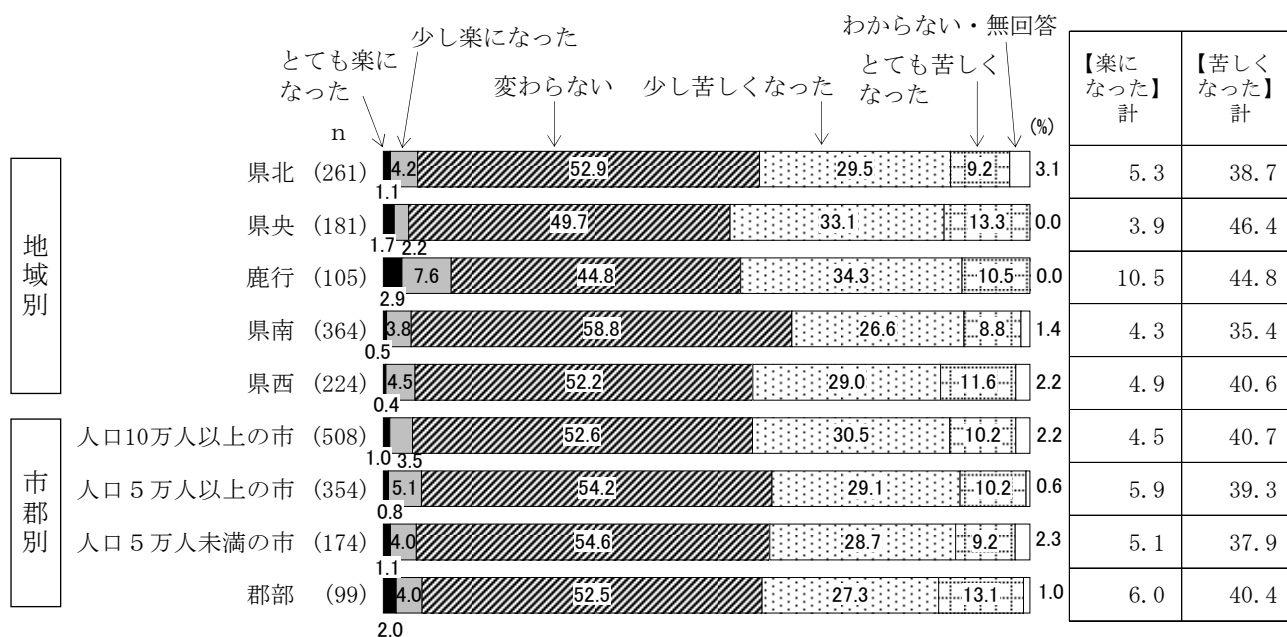
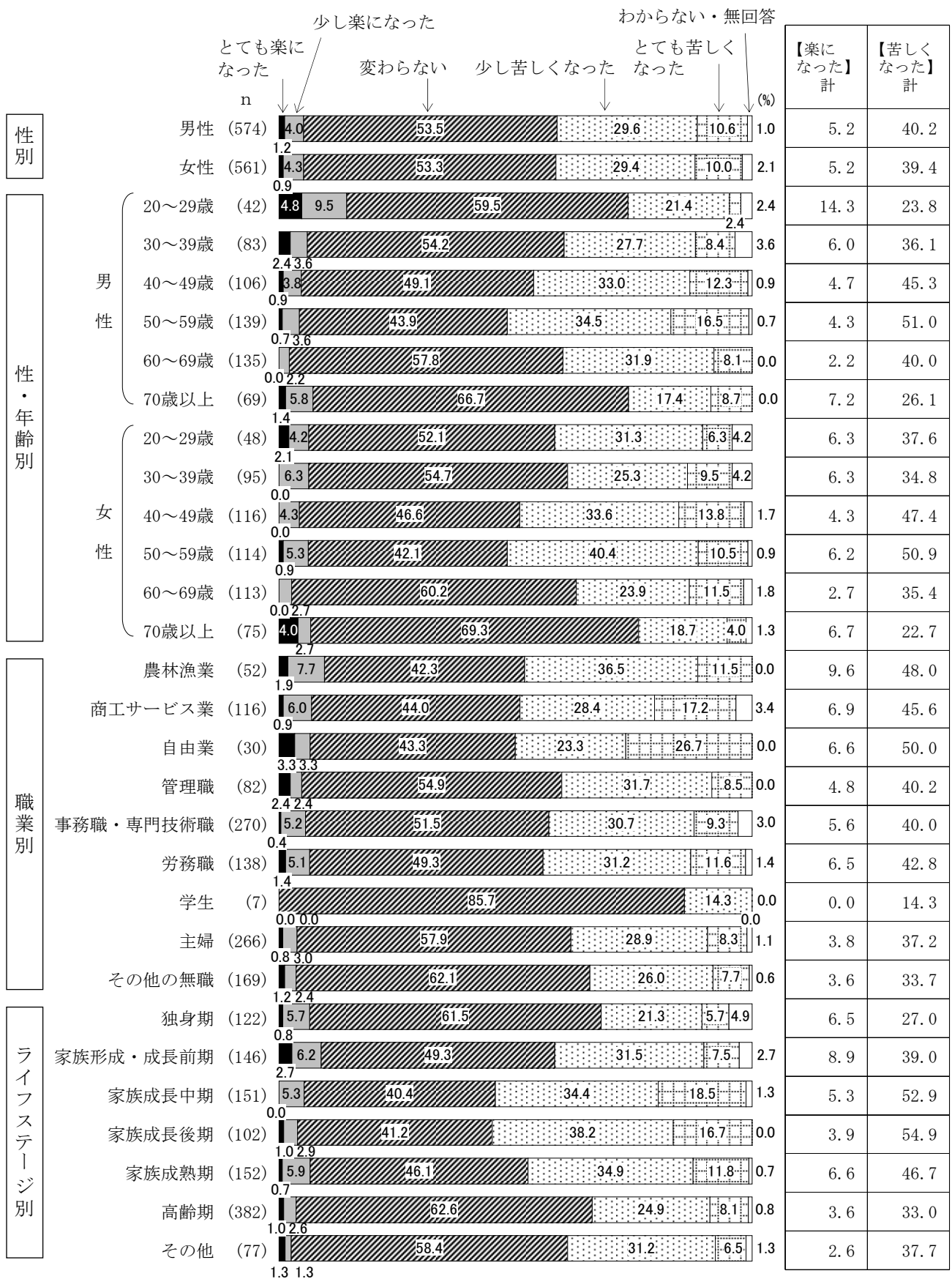


図 I 2-3 暮らし向きの変化（性別，性・年齢別，職業別，ライフステージ別）



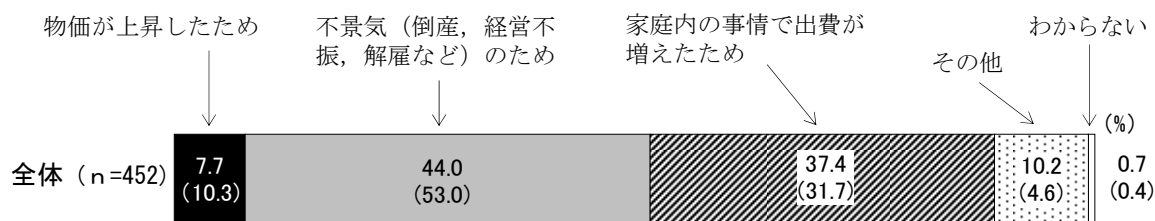
(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 苦しくなった理由

—「不景気のため」が4割台半ばで最も多い—

(問2で、「少し苦しくなった」か「とても苦しくなった」と回答した方のみ)

問2-1 苦しくなったのは、主にどのようなことからですか。次の中から、もっとも大きな原因を1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成21年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】と回答した方に、その理由を聞いたところ、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」(44.0%)が最も多く、4割台半ば近くとなっている。次いで、「家庭内の事情で出費が増えたため」(37.4%)、「物価が上昇したため」(7.7%)の順となっている。

前回調査と比べると、「家庭内の事情で出費が増えたため」が約6ポイント増加している。逆に、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」が9ポイント減少しているほか、「物価が上昇したため」は、約3ポイント減少している。

—男性では50代で「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」が約6割—

地域別でみると、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、県西(54.9%)で5割台半ばを占め高くなっている。また、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、県北(40.6%)で4割を超えている。

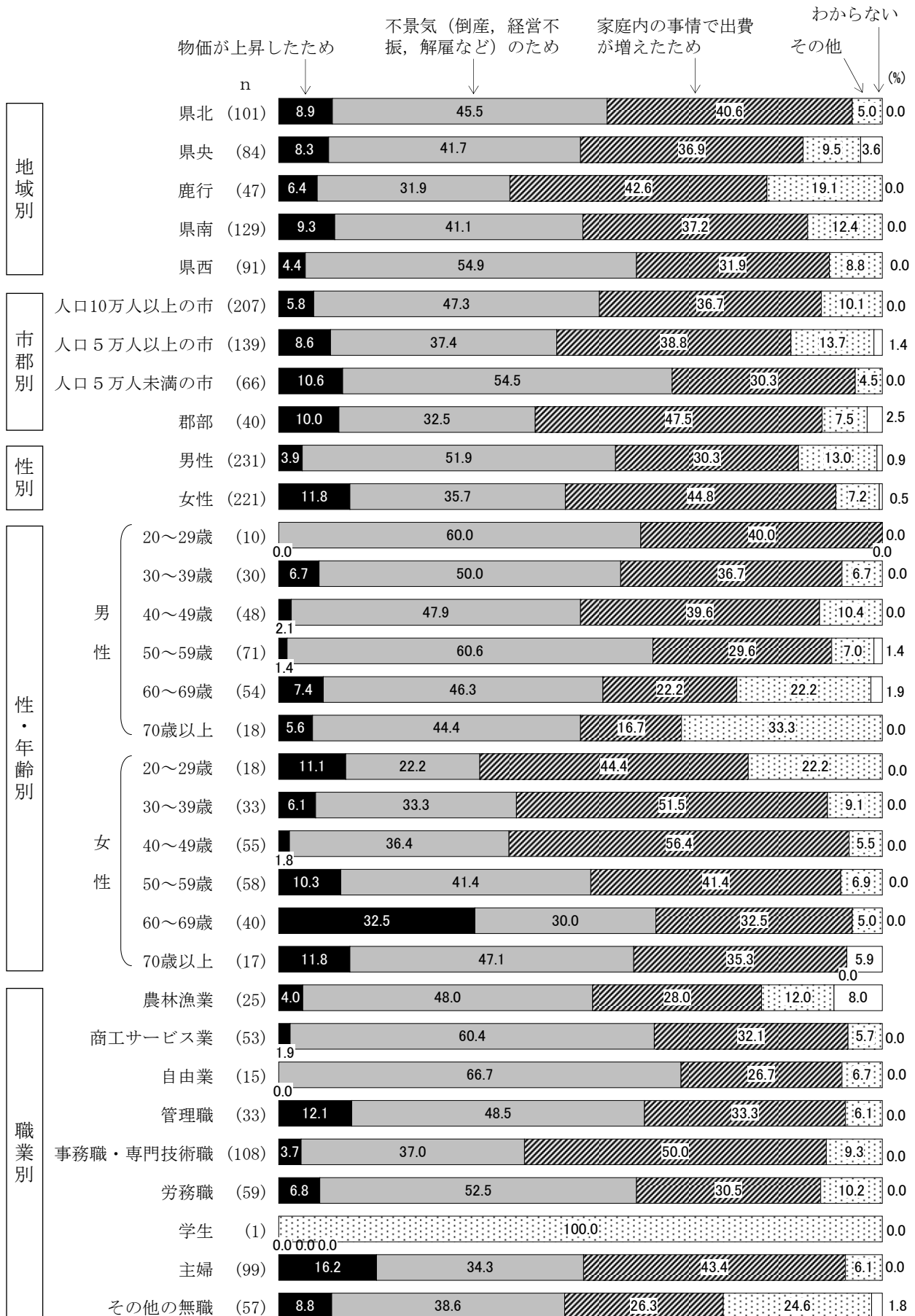
市郡別でみると、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、人口5万人未満の市(54.5%)で5割台半ばと高くなっている。

性別でみると、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、男性(51.9%)が女性(35.7%)よりも約16ポイント高くなっている。逆に、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、女性(44.8%)が男性(30.3%)より約15ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、男性では、50代(60.6%)で6割を超え高くなっている。一方、女性では、50代(41.4%)で4割を超え最も高くなっている。また、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、男性では、30代(36.7%)、40代(39.6%)で3割を超えている。一方、女性では、30代~40代で5割を超え高く、この年代の苦しなくなった最大の理由となっているほか、50代(41.4%)も4割を超え高くなっている。

職業別でみると、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、商工サービス業(60.4%)が6割を超え高くなっているほか、労務職(52.5%)も5割を超えている。

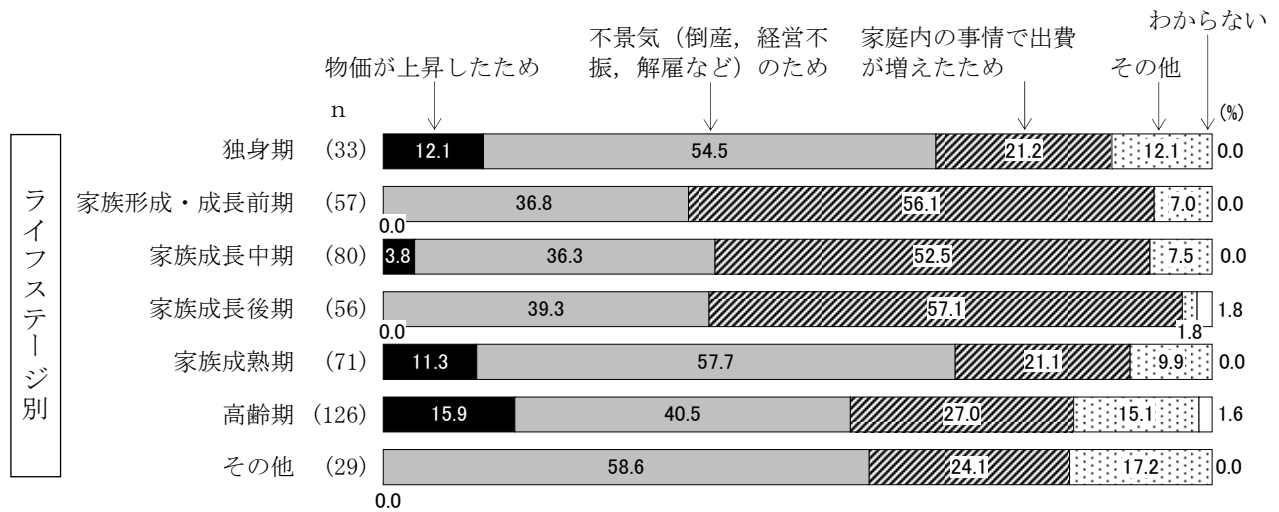
図 I 2-1-1 苦しくなった理由（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



(注) 男性及び女性の20～29歳と70歳以上，自由業，学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

ライフステージ別でみると、「不景気（倒産，経営不振，解雇など）のため」は，独身期（54.5%），家族成熟期（57.7%）で5割台半ば前後を占め高くなっている。また，「家庭内の事情で出費が増えたため」は，家族形成・成長前期（56.1%），家族成長中期（52.5%），家族成長後期（57.1%）で5割を超えている。「物価が上昇したため」は，独身期（12.1%），家族成熟期（11.3%），高齢期（15.9%）で1割を超え，高くなっている。

図 I 2-1-2 苦しくなった理由（ライフステージ別）

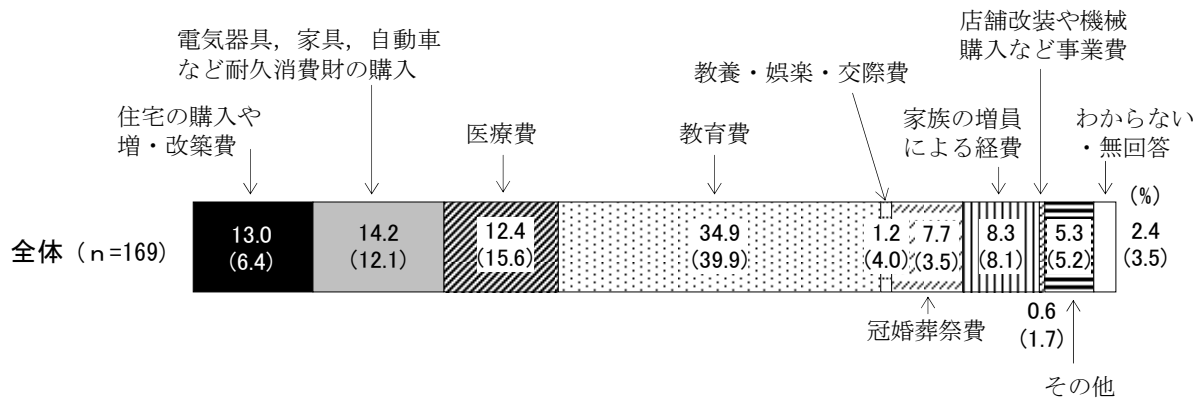


(3) 増えた経費

—「教育費」が3割台半ばで最も多い—

(問2-1で、「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方のみ)

問2-1-1 家庭内の事情で出費が増えたということですが、どのような経費がもっとも増えましたか。次の中から1つだけ選んでください。



※()内の数値は,平成21年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】理由が「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方に増えた経費を聞いたところ、「教育費」(34.9%)が3割台半ばで最も多く、次いで、「電気器具, 家具, 自動車など耐久消費財の購入」(14.2%), 「住宅の購入や増・改築費」(13.0%)の順となっている。

前回調査と比べると、「住宅の購入や増・改築費」が約7ポイント増加しているほか、「冠婚葬祭費」が約4ポイント増加している。逆に、「教育費」は5ポイント減少している。